

巻 頭 言

学 長 前 田 充 明

本学は、昭和四十年四月、総合大学の構想を標榜して設立され、現在、三学部六学科を擁するいわば発展途上の大学である。

大学が、教育の機関であると同時に研究の機関であることは、専門課程においても教養課程においても変わることはないのだが、教養課程においては、学生に対する専門的な学術研究の指導という面より、学術をとおして結ばれた教授者が、その人格・識見によってかれらの人間的成長を高めることに重点が置かれているとあってよい。したがって、多様な諸文化の国際的交流、急速な科学技術の発達、さらに激動してやまない現代社会にあって、新たなる人類文化と人間生活の遙かなる未来に向って、豊かな展望を開こうとする教養課程、その担当者がたゆまざる研鑽こそ、大学発展の重要な礎の一つと考えなければならない。本学においては、かかる観点から教養課程を重視し、その整備充実に関して検討・構想中である。

今般、教養課程、すなわち、一般教育・外国語および保健体育の教授者は本論集を編み、広く学内外のご高覧に供し、忌憚ないご叱正を乞うこととなった。まことに故あることと思う。創立十余年、建学の意義を思い、大学存在の意味をかみしめての本論集刊行の意図を了とされたい。

昭和五十二年三月三十日